

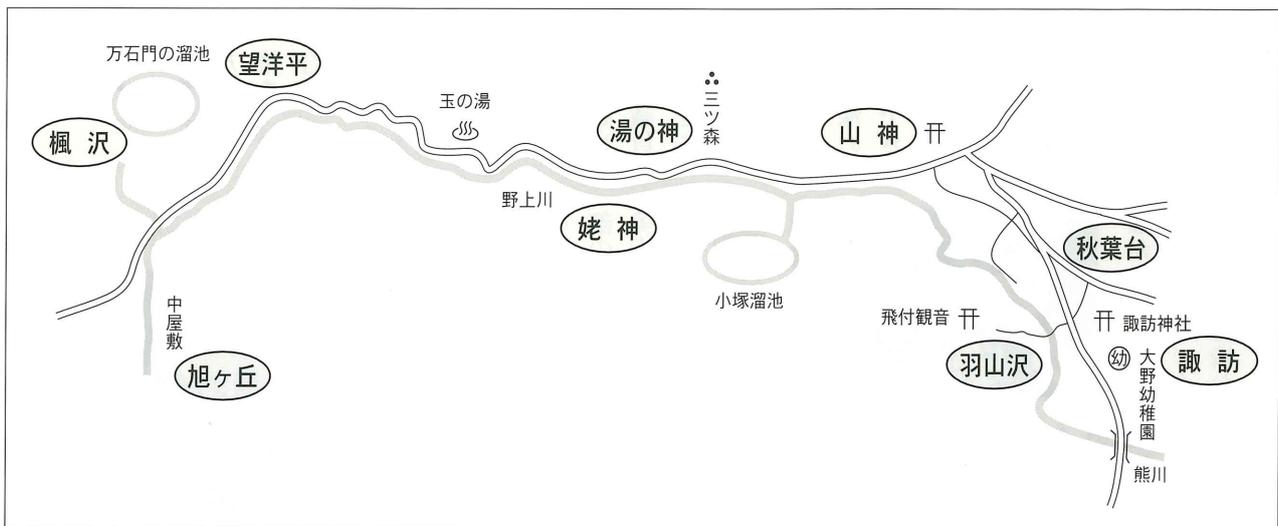
大熊町を 端から端まで 知りつくそう!

ふるさと 再発見

旧地名を訪ねて

●第7回 野上地区 (〒979-1307)

この地域は阿武隈山系の高地から野上原にかけて開けた地域です。国道 288 号線が阿武隈山系を貫き中通り方面につながっています。車窓から望む野上川の溪流沿いは四季を通して景観を楽しむことができます。



【野上地区新旧字名一覧表】

新	旭ヶ丘	楓	沢	望	洋	平	姥	神	湯	の	神	山	神	羽	山	沢	秋	葉	台	諏	訪				
旧	中屋敷	万右エ門沢の一部	万右エ門沢の一部	姥	神	前	井戸	神	沢	大	久	保	観	音	山	地	蔵	前	小	長	沢の一部				
		蝶子森の一部	高	平	落	合	一	本	櫛	清水谷地の一部	小	長	沢の一部	杉	の	前	下	原							
			大	森	小	塚	砂	出の一部	砂	出の一部	シ	水	谷地の一部	判	官	清水谷地の一部									
					坂	下	田	光	倉	山	神	前の一部	下	谷	地の一部	日	向	の	一	部	下	谷	地の一部		
					砂	出の一部	三	ツ	森	日	向	の	一	部	館	下	前	畑	田	屋	敷				
					百	目	木								館	沢	山	神	前	の	一	部	中	川	原の一部
					平	太	治	郎							長	沢	鷺	ノ	口	の	一	部	前	谷	地
					向	山									中	川	原	の	一	部					
					湯	の	入								羽	山									
															茂	手	木								

※国有林であって国土調査外で字名が変わらない地名

東松、小右エ門釜、誠童子、猪藪石、万右エ門沢、切当、大抜先、岳の楢、蝶小森、三郡、彦惣、大山、鳥の銅室、熊王、サイカチ、佛角、日隠石、高家老

(平成 19 年 1 月 31 日現在)

人口	男	女	小計
秋葉台	42	38	80
山神	41	46	87
湯の神	42	53	95
姥神	3	3	6
羽山沢	4	2	6
諏訪	144	146	290
小塚	3	3	6
旭ヶ丘	12	11	23
楓沢	2	2	4
合計	293	304	597

野上地区には縄文時代の砂出遺跡、万右工門遺跡、玉の湯発見の由



▲玉の湯下の溪流



▶田んぼのモリアオガエルの卵

二、三年前から、小塚地区の田圃にモリアオガエルの産卵がみられたことから、有志が周辺の環境の整備を始め、保護に当たっています。万右工門の溜池には以前からモリアオガエルが生息しており、野上地区の自然の豊かさが感じられます。

来、飛付観音の由来など古代の歴史を彷彿させる遺産が多く見られます。地域に語りつがれてきた民話を聞き起こして編纂された「野がみの里」が残されており、今ではむかしのよすがを偲ぶことができる貴重なものとなっています。

飛付観音物語

むかし。

野上川を登って行くと、曲がりくねった清流が数丈の断崖を流れおちている景勝の地があった。その山は「鹿が峯」と呼ばれ、崖の下の川のほとりには、古びたちつちやな祠が建っていた。祀つてある神様は「保食大神」「宇加之魂命」の二柱と、平将門を祀つて

いると言われていた。そして、馬の神様としても信心されていて、祭日には近在近郷の馬や人がたまげるほど集まって、たいそう、賑やかだったそうだ。

そのことを、土地の人は、代々語り継いできた。

話しのひとつは、相馬の殿様のご先祖にあたる平将門が、依藤太秀郷らに亡ぼされ、やがて、三女の滝夜叉姫は父の仇を討とうとしたが、果たすことができなくて、巡礼の姿になって、父の像を背負い奥州に下った。そして、岩城の玉山にある恵日寺という寺のそばに庵を結んで、一生を終わった。この像が巡礼観音とか飛付観音とかいわれて、子孫のお殿様がこの地方に移ったから、こつちに来たという言い伝えがあるそうだ。

もうひとつは野山が若葉に包まれ、山桜がさかりに咲いていた春の午後の

こと、突然、あたりが金色に輝いた。里の人らは驚き、地面にひれ伏した。

その時、空の方で馬の嘶きや轡の音がしたんで、おっかなびっくり、空を見たら、金色の馬に跨った観音菩薩様が紫の手綱を絞つて、空を駆けて行く姿が見えた。

あれよあれよと、驚いて見ているうちに、馬は鹿が峯に飛び付いたと思つたら、かき消すように姿が見えなくなった。

そして、鹿が峯に行つて見ると、崖に、くつきりと馬の蹄の跡が残っていた。

なんでも、寺沢（双葉町）の方から飛んで来たということだ。このことがあつてから、里の人は、崖の下にあつた大杉の根元に祠を建てて祀り、「馬祖飛付相善神社」と称え、鹿が峯を「観音山」と呼ぶようになった。

民話「苦麻川」より

